

### 3-4 意見・要望

問 11 国や自治体への要望、復興に対するあなたの展望やお気持ちなどをご自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望やお気持ちなどについて、1,901 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難生活の長期化への不安</li> <li>・元の生活が取り戻せるかどうかの不安</li> <li>・元の生活、安定した生活の回復</li> <li>・元の生活に戻ることにあきらめ</li> <li>・現在の生活について</li> <li>・現在の生活の人間関係・コミュニティについて</li> <li>・現在の生活の経済的な不安について</li> <li>・現在の生活の健康に関する不安について</li> <li>・現在の生活の仕事・学業に関する不安について</li> <li>・現在の生活全般の不安について</li> <li>・将来の生活に関する考えについて</li> <li>・将来の生活の経済的な不安について</li> <li>・将来の生活の健康に関する不安について</li> <li>・将来の生活の仕事・学業に関する不安について</li> <li>・将来の生活全般の不安について</li> <li>・生活（再建）支援について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・除染作業の意義について</li> <li>・除染作業にかかる費用の他への活用について</li> <li>・除染作業の効果などについて</li> <li>・除染作業の実施箇所などについて</li> <li>・除染作業の早期・迅速・的確な実施について</li> <li>・除染作業スケジュールの明確化について</li> <li>・除染廃棄物の処理について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰還困難区域への立入りについて</li> <li>・帰還困難区域等の設定について</li> <li>・所有する住まい・土地の買取りについて</li> <li>・自宅の現状（被害状況）について</li> <li>・自宅の再建・改築・解体について</li> <li>・元の住居や土地などの管理・処分について</li> <li>・元の住居や土地に対する税について</li> <li>・所有する墓地の維持・管理・移転について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復旧・復興の遅れ、長期化について</li> <li>・復旧・復興のスケジュールについて</li> <li>・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について</li> <li>・町村合併について</li> <li>・ライフライン・インフラの整備について</li> <li>・社会福祉施設の整備について</li> <li>・医療施設の復興・充実について</li> <li>・学校の復興・充実について</li> <li>・商業の復興・充実について</li> <li>・住民の参加・自助努力について</li> <li>・早期の現状回復・復興実現について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賠償内容・方法について</li> <li>・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について</li> <li>・所有する住まい・土地に対する賠償全般について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廃炉作業の迅速な実施について</li> <li>・廃炉作業全般について</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帰還への不安</li> <li>・帰還可能時期の明確化について</li> <li>・帰還したい</li> <li>・帰還しない</li> <li>・現時点では帰還の判断ができない</li> <li>・帰還に関する施策について</li> <li>・帰還を望まない人への対応について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政や東電の対応について</li> <li>・対応の長期化、遅れについて</li> <li>・情報の開示・発信について</li> <li>・中長期的スケジュールについて</li> <li>・その他</li> </ul>
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興公営住宅の早期・迅速な建設について</li> <li>・復興公営住宅の建設地・形態等について</li> <li>・復興公営住宅に係る経済的負担について</li> <li>・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安</li> <li>・復興公営住宅への入居について</li> <li>・居住場所の確保について</li> <li>・借上げ住宅について</li> <li>・住宅の購入について</li> <li>・その他</li> </ul>	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のエネルギー政策について</li> <li>・行政に対する謝意、励まし</li> <li>・その他</li> </ul>

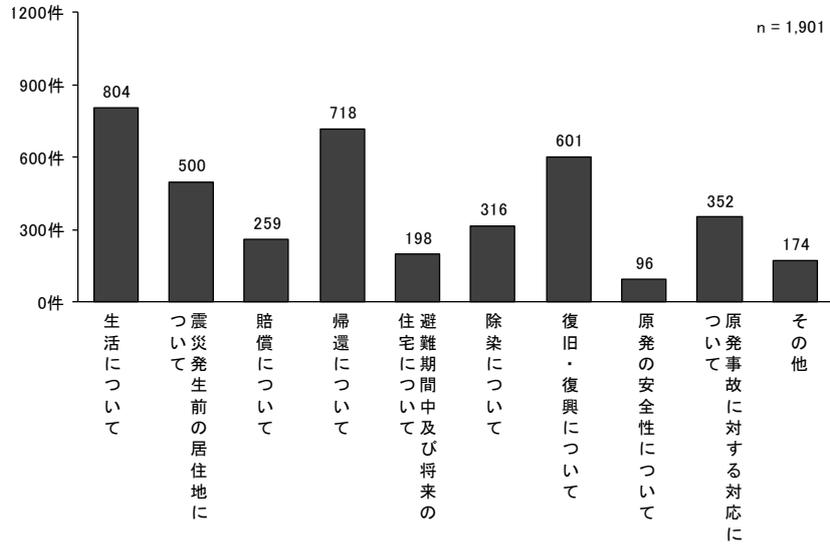
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。  
 ※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

### Ⅲ 調査結果

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が804件と最も多く、次いで「帰還について」が718件、「復旧・復興について」が601件などとなっている。

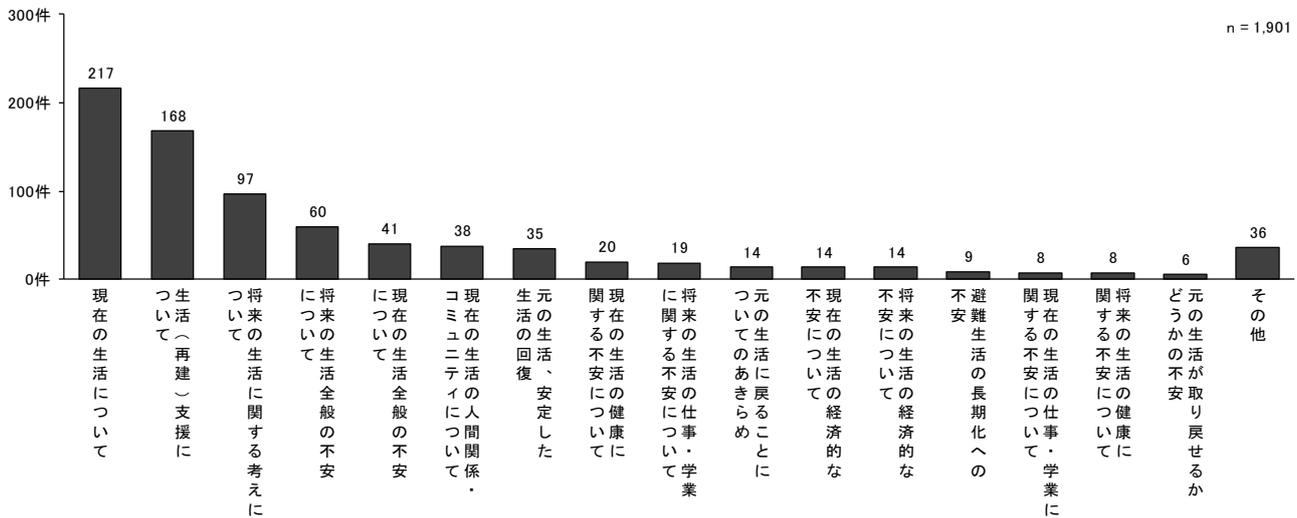
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「現在の生活について」が217件と最も多く、次いで「生活（再建）支援について」が168件、「将来の生活に関する考えについて」が97件などとなっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【現在の生活について】**

- 避難している人の気持ちになって、避難している人の気持ちを考えて復興を進めていただきたいです。今は家族みんなで前を向いて生活していますが、故郷を離れ、友人達ともバラバラになってしまい、考えるともとても悲しい気持ちになります。(30代)
- すでに仕事も再開して自立して前以上の生活を手に入れて毎日を過ごしており、特に望むことはありません。もう避難者ではありませんので大丈夫です。(40代)
- どうしようもない事が起きたと感じている。個人の無力感、受け入れるしかない現状であるがとりあえず、生きている事には喜びを持っている。(50代)

**【生活（再建）支援について】**

- 浪江町と宇都宮市を毎月2回、北関東常磐高速道路を利用しています。今後も高速道路使用無料化と燃料代の支援をお願い致します。JR乗車の費用の支援もお願い致します。(30代)
- 一人暮らし、高齢者などに寄り添って話を聞いてくれる所。また、何でも相談できる所（人）があれば助かります。(60代)
- 医療費の無償化を続けてほしい。また、保健料（国保）に対しても続けてほしいのでお願いします。(70代以上)

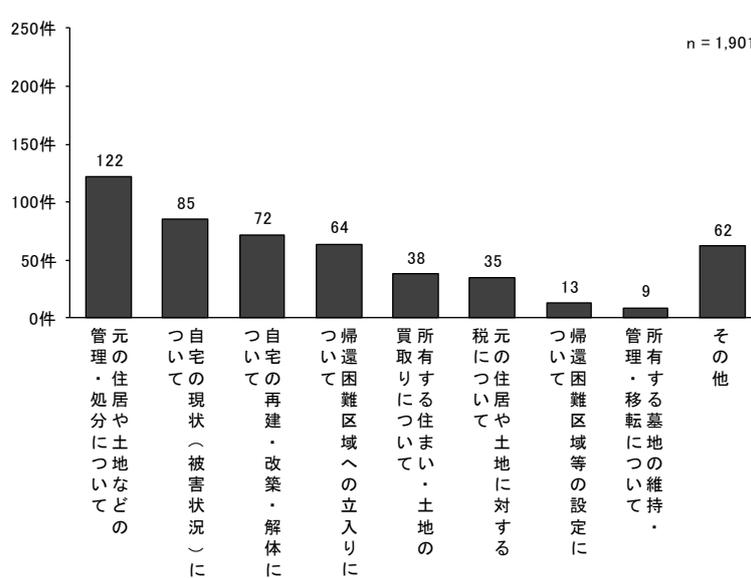
**【将来の生活に関する考えについて】**

- 浪江町に戻りたい人がいて浪江町が復興へ踏み出していることを心より応援したいし、生まれ育った町なので、協力できることがあればしたいという思いもある。つながりを切りたくないなと思っている。(40代)
- 「解除」や「帰還」という言葉にプレッシャーを感じたりする人もいます。私もそうですが、自分のペースで、これからのことを判断していきたい。(30代)
- 年が年だから死ぬ前に一度浪江に帰りたい。災害公営住宅に入れてもらってそれから先の事を考えたい。皆大変な思いをしているのだからなるべく迷惑をかけない様にしたいと思う。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「元の住居や土地などの管理・処分について」が122件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が85件、「自宅の再建・改築・解体について」が72件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【元の住居や土地などの管理・処分について】**

- ・ 家と敷地の手入れ、管理をしているが、他の地域のように、電気も通らず、水も出ず、ゴミも捨てられないので限度がある。今はあまり傷みもないが、今後もこの状況では維持が難しい。(50代)
- ・ 浪江町にある自分の土地の処理について相談窓口が出来れば有難いです。(70代以上)
- ・ 避難先から田んぼ、若しくは何かの作付けに通う事は困難であり、非常に土地を所有していることに困っています。中間貯蔵としてお貸したい位です。(40代)

**【自宅の現状（被害状況）について】**

- ・ 浪江の家もどんどん傷み、行く度に関わり果ててしまい悲しくなってしまいます。荒れ果てた自分の家を見るのはつらいものです。子供達と一緒に過ごした思い出深い家なのに、なぜこんなことになってしまったのかと思うと今でも納得できません。(40代)
- ・ 建物はしっかりしているものの家の中に入ると床は白アリに荒され、いつタンスが倒れるかわからないような状態。すべて修理しないと生活が出来ず帰りたくても帰れない。(70代以上)
- ・ 震災発生2～3年は、家の劣化はそれほどでもなかったのが、今ではねずみ、いのししが家のあらゆる所を汚損、劣化が激しく話にならない状況です。(70代以上)

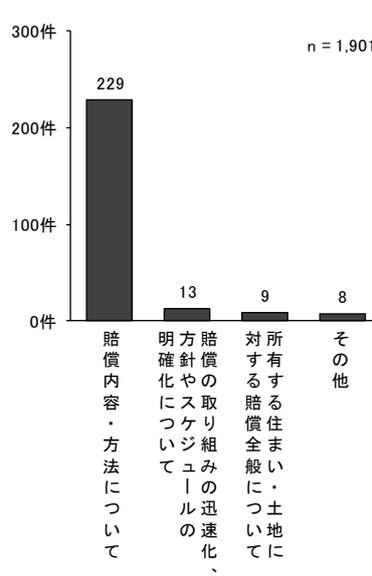
**【自宅の再建・改築・解体について】**

- ・ 家屋の解体を申請中ですが、解体後の情報も伝えてほしい。(60代)
- ・ 町への帰還にあたり、リフォームを行う予定のある人たちに対する助成金を出してほしい。(50代)
- ・ 浪江の家も解体していただき、心配事はなくなりました。ありがとうございました。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が229件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が13件、「所有する住まい・土地に対する賠償全般について」が9件などとなっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**[賠償内容・方法について]**

- 東電に家賃分を賠償してもらっているが、賠償期間が過ぎたら生活していけるか心配である。賠償期間を延長してもらいたい。(40代)
- 津波地区の賠償額の格差がひどいと思う。住宅が「ある」「ない」では差がある。住宅を再建する上で、不公平!!大変である。(50代)
- 賠償は十分に行われていると感じています。最近自然災害が多いなか原発被害者は恵まれていると思っています。(70代以上)

**[賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について]**

- 家を新築するにしても、明確な賠償額が分からなくては行動に移せない。(30代)
- 土地、その他の賠償の手続きが分かりにくい。(70代以上)
- 一日も早く早期賠償を実現して苦しみから開放して下さい。お願い致します。(40代)

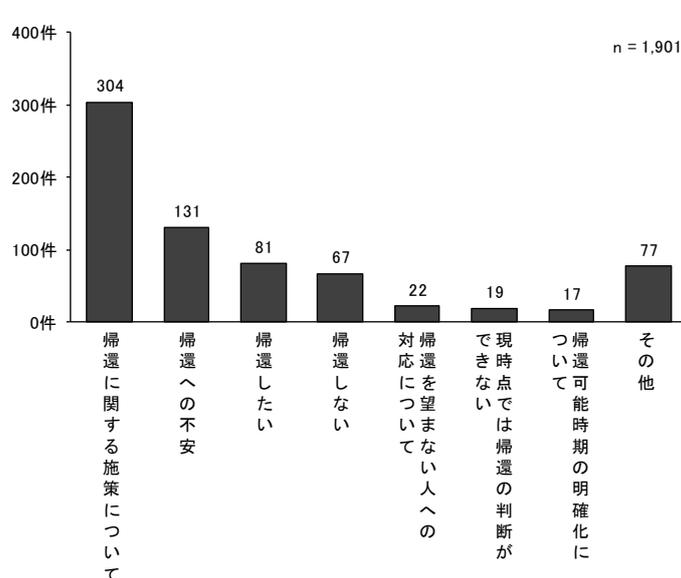
**[所有する住まい・土地に対する賠償全般について]**

- 住居は広がったが、昭和20年代の建物の為、賠償金額も少ない。何とか、同じ程の土地・建物(家)を手に入れる事が出来るようには賠償金額の引き上げは出来ませんか。(40代)
- 建物や土地の補償をする前に人に対する補償をしてから、次の段階で建物、土地にすべきではないのか。(60代)
- 仮設住宅への入居者の手厚い支援、災害公営住宅の入居者への厚遇。等々を見ると住宅賠償金で住宅の取得をした者としてはしっくり来ない。(70代以上)

#### (4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が304件と最も多く、次いで「帰還への不安」が131件、「帰還したい」が81件などとなっている。

＜図表3-4-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

#### [帰還に関する施策について]

- 浪江に戻る住民が増えなければ復興したとは言えないと思う。浪江に戻る人、浪江に移住する人が増えるよう、何かしらの優遇措置が必要と考える。(40代)
- 浪江に戻りたいと思っているのですが、住む場所(アパート等)、仕事(自分のできることであれば何でも)等が大切になってきます。そういう情報も時々あれば、助かります。(60代)
- 帰還困難区域内でも線量が低い地域があります。除染が完了している町内の線量の方が高い所が何か所かあります。帰還希望者には優先的に(地区全体の帰還を目指すのではなく)帰宅を認めるようにすべきと思います。(60代)

#### [帰還への不安]

- 家の除染は終わったが、実際震災前の原子力発電所よりも汚染している所へ子供を連れて帰れるわけがない!(40代)
- 現在も原発周辺はかなり危険なのではないですか?本当に戻っても安全に生活することは出来るのですか?(50代)
- 仕事の関係や、子供の教育、事業の再開の見通しが立たない等で若い人達の帰還は相当遅れるものと思われる。それまでの間老人だけの町で生活出来るだろうか。(70代以上)

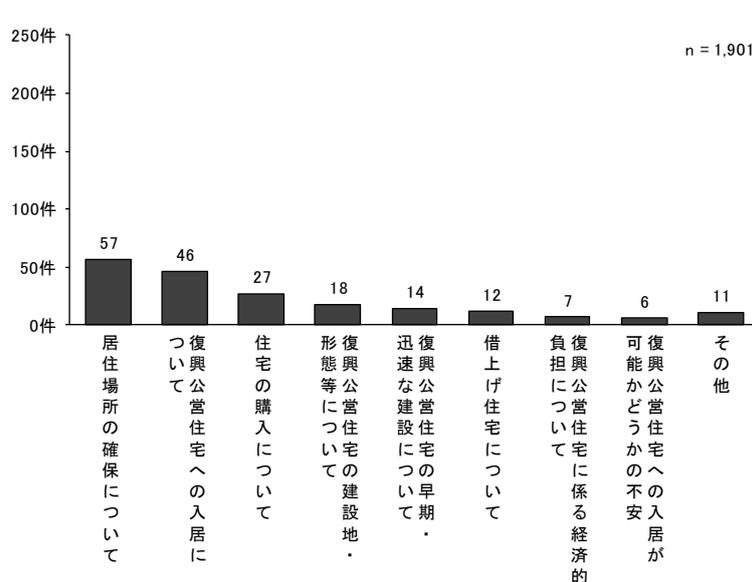
#### [帰還したい]

- 子供が独立したら、一人でも浪江に帰りたい。(30代)
- 我がふるさとは遠くなり戻れる日々を夢に見ています。元気な姿で我が家に帰りたい。一番の望みです。1日も早い時期に安心して我が家に帰れる事を感じています。(70代以上)
- 生まれ育った故郷に帰りたい気持ちいっぱいです。でも歳を考えると不安です。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が57件と最も多く、次いで「復興公営住宅への入居について」が46件、「住宅の購入について」が27件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**[居住場所の確保について]**

- 復興住宅もどうしようかと考えていますが、家族が3か所に住んでいる為、いつもどこに拠点を置くか考えるとしんどくなります。(40代)
- 何事も思うように進まないのが困っている。国、県、自治体は早く農地法を改正してどこでも住めるようにしてほしい。(60代)
- 高齢の為今後どうしていいかわからない。福島の高齢者ホーム等に移りたい。一人もの高齢者をどうする気ですか。(70代以上)

**[復興公営住宅への入居について]**

- 避難先に新築したり災害住宅に入居した人でも浪江町に帰る場合は、浪江町の復興住宅に入居できるようにしてもらいたい。(50代)
- 浪江町の災害復興公営住宅にお世話になりたいと思っています。自分も高齢になり思う様に動けなくなったので家族全員と一緒に入居して暮らしたいので一戸建の住宅を希望しています。(70代以上)
- 避難して6年になる来年3月にやっと復興住宅に移れそうなので少し安心してしています。どうしてももう少し早く出来なかったのかと思います。(70代以上)

### Ⅲ 調査結果

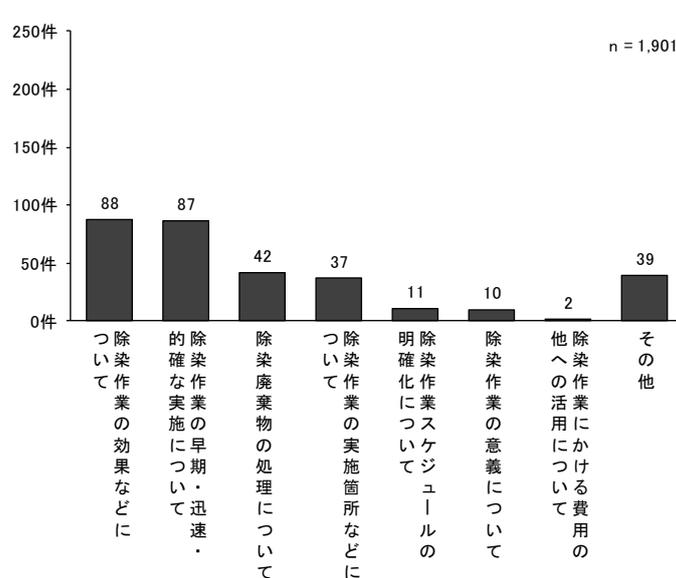
#### 【住宅の購入について】

- 避難先で生まれた子供のためには、そちらに自宅（新居）を建てたいと考えているが、賠償金が少ない上、たくわえも無い為、現実的には難しい。（40代）
- 復興住宅に申し込もうと思ったが、家賃が高い。仕事をしているので最高額！そのお金を払うのなら、持家を買いたい。浪江に安く家を作れるなら、帰っても良いと思っている。（50代）
- 家は戸建を買いましたが沢山のローンがありますので今後どうなっていくのかと心配は沢山残っています。持ち家の方との差があまりにも大きくて補償をいつまで続けてくれるのかこれからも心配は続いて行くと思います。（60代）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染作業の効果などについて」が88件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」が87件、「除染廃棄物の処理について」が42件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**[除染作業の効果などについて]**

- 建物の除染は一度完了して、近辺は確かに線量が下がっているが、建物から少し離れた林の中など非常に高い数値になっていて、雨、風によって建物の方も高い数値に戻るような気がします。(50代)
- 自宅及び周辺等の除染結果の開示がされていなく放射線(能)の現在の状況が不安。(60代)
- 放射線量がどこまで下がっているのか、データが出ていても、不安はあります。(30代)

**[除染作業の早期・迅速・的確な実施について]**

- 国にはしっかりと除染してほしいと願います。まだ放射能が恐くて帰りたいと思う気持ちにはなれませんが、やっぱりふるさとはいずれ戻りたいです。しっかりと確実に除染して、安心させて下さい。(50代)
- 除染を早めて、帰還困難区域も自由に自宅に立ち入り出来ますように要望します。(60代)
- 放射線量が低下するまで、除染作業を続けて下さい(年間1ミリシーベルトを目指して)。(70代以上)

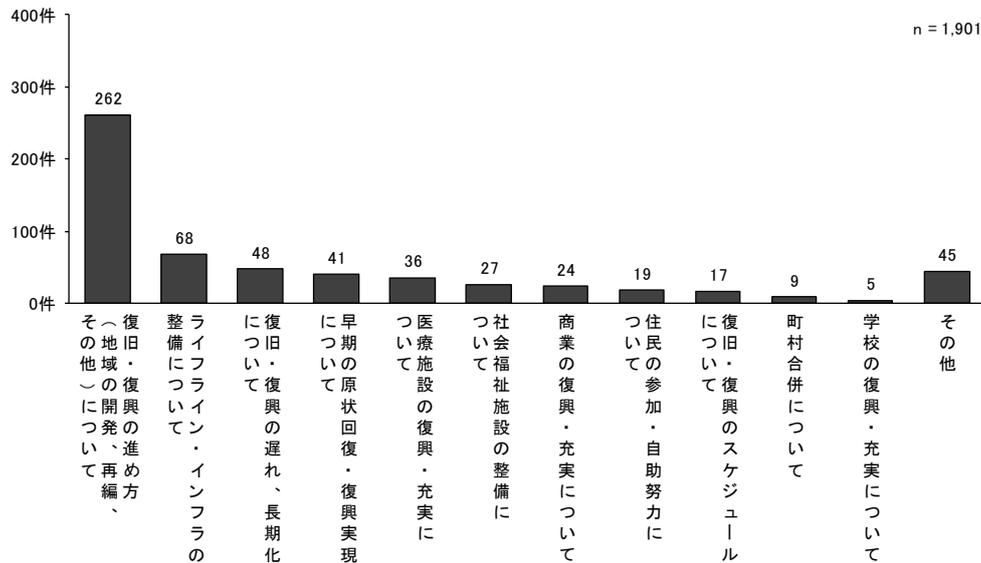
**[除染廃棄物の処理について]**

- 国は放射性廃棄物の最終処分について明言してほしい。(30代)
- 放射性廃棄物の焼却処分を多くし、貯蔵する量を少なくするべき。(50代)
- 中間貯蔵を双葉・大熊町に仮置した場合空間線量が心配です。(60代)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について」が262件と最も多く、次いで「ライフライン・インフラの整備について」が68件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が48件などとなっている。

<図表3-4-8 復旧・復興についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**〔復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について〕**

- 日本列島のあらゆる地域が、地震、台風、洪水など天災にみまわれる近年、浪江町には、防災減災町モデルとして、手本になってほしい。（30代）
- 津波被災地は、堤防工・防災林事業、請戸港の整備等計画に沿って進んでいるが、土地（主に農地）の活用については規制にとらわれず特例区として、住民・地権者の意向を重視して進めてほしい。（60代）
- 帰町者や町への移住者が段階的に増加すると予想されることから、国へ復興・復旧事業に係る支援条件の緩和や支援の期限延長を望む。（40代）

**〔ライフライン・インフラの整備について〕**

- まずJR常磐線の浪江～仙台間の早期再開を求めます。併せて浪江駅の補修もして下さい。大野駅のように、渡り廊下を作って浪江町地域スポーツセンターのところに出入口を設けていただくとなお有難いです。（40代）
- 鉄道を早く通してもらって遠くの方々と行き来がスムーズに出来るようになること。国道だけでは運転出来ない者にとって交通手段がなく、例えば相馬～平～仙台に行って高速バスか電車に乗って非常に遠回り。鉄道が通れば全体的に復興した気分になるし明るくなると思う（気持的に）。人の行き来（動き）は大切です。（70代以上）
- 道の駅（交流・情報発信拠点）の整備と国道114号拡幅工事を並行して推進することにより利用促進が図られ町の復興に大きく寄与するものと考えます。（70代以上）

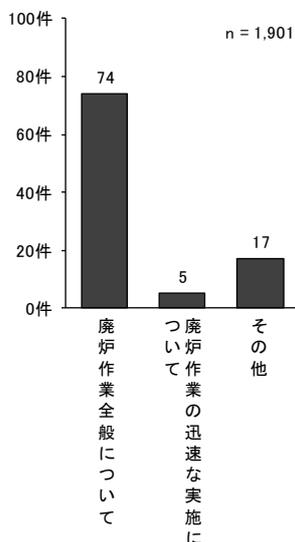
〔復旧・復興の遅れ、長期化について〕

- もっと早く、復旧・復興するものと安易に考えていたが、長い歳月が人々の背中を押すにはあまりにも時間が経ち過ぎた。(50代)
- 年々、復興が遅く感じる。反面、他の地域での災害が多くもう5年も経っているので、自分達が何もしてもらえないという気持ちにはなれない。(40代)
- あまりにも復興が遅れたため帰る気がなくなり別な道を進まざるをえなかった。(70代以上)

#### (8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が74件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が5件などとなっている。

〈図表3-4-9 原発の安全性についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

##### 【廃炉作業全般について】

- 原発の廃炉が終わるまで安全ではない。人は完璧じゃない。小さな問題も情報開示し、信用を積み重ねて下さい。(40代)
- やはり原発の安全性は気にかけている。順調に進めば良いが、今後、また大きな災害等が来た場合を考えると大変ではないかと思う。防災に対する意識を高め、具体的に備えていく必要があると思う。(60代)
- 原発の廃炉まで30年間必要とのことでありその間完全に安全なのか心配です。これが浪江町に帰れない一番の原因であります。(70代以上)

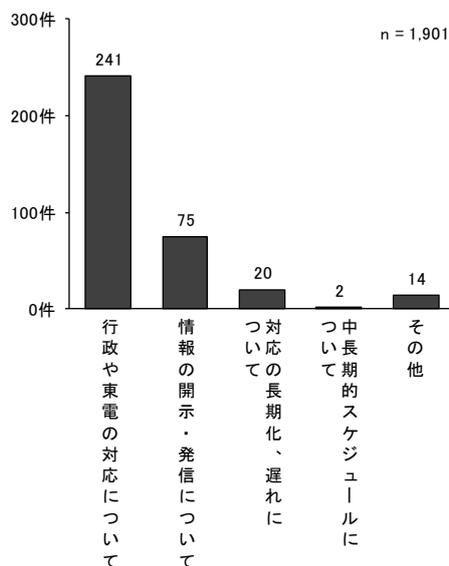
##### 【廃炉作業の迅速な実施について】

- 一日も早く東電の事が解決し、廃炉作業が進み安心できる日が来る事を望む。(60代)
- どうして最後まで完全に安全に扱えないものに頼ったのでしょうか! ?と今さらながら悔しいです。日本人は、優れた方が多いので、一日でも早い完全収束を信じ! 願っています。(50代)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が241件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が75件、「対応の長期化、遅れについて」が20件などとなっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【行政や東電の対応について】**

- 浪江町は、復興のためにものすごく努力をし、取り組んでいます。…が、東電は信用できない。もう、過ぎた事起こってしまった事故はいいが、これからは、不正や隠し事はなしで、もう少しわかりやすく説明や話をしてほしいと思います。そのせいで、なかなか聞く耳を持ってないです。(30代)
- それぞれ避難している自治体の細部まで、目を向けていただきたい。避難先の自治体が何を希望しているかも確認してほしいです(避難者が来てどう感じているかとか)。(40代)
- 「どこへ住んでも同じ浪江の町民」というフレーズだが、県内居住、浪江への帰還、県外居住の町民への予算の使い方が不公平に感じるのは私だけでしょうか？(70代以上)

**【情報の開示・発信について】**

- 復興に関する要望ではありませんが広報誌の紙の量が多いと思います。1つの冊子にまとめたものだけというわけにはいかないのでしょうか。(10~20代)
- 子供に対する線量による健康被害の説明。帰還困難区域からの放射能・放射線の影響に対する説明。福島県外での説明会の実施。(40代)
- 困難区域のこれからの事はっきりお知らせ願いたい。今まであまり将来について(困難区域)何のニュースもなく5年半過ごした。(70代以上)

### Ⅲ 調査結果

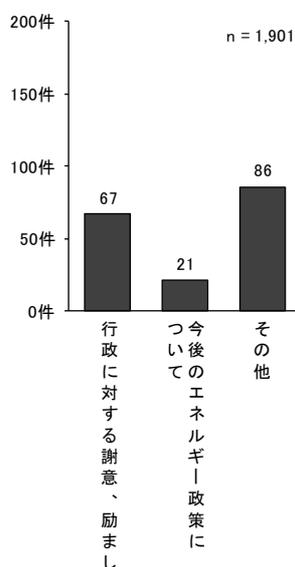
#### [対応の長期化、遅れについて]

- 被災から5年6ヶ月私達には長かった。町長の判断が遅く気持ちが変わった。戻っても若い人は帰らないと思うし、子供達のことを思うと考えられない。(30代)
- まだまだ復興にはほど遠いと感じています。国はもう少しスピードを持って復興に取り組んでほしいと思います。(70代以上)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が67件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が21件などとなっている。

<図表3-4-11 その他についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

**【行政に対する謝意、励まし】**

- 復興に携わっておられる職員の皆様に心より感謝申し上げます。色々と心労が重なり大変でしょうが、これからが本番です。頑張ってください。期待しています。みなさんの取り組みは必ず「歴史」として評価されます。(50代)
- 町の復興に頑張っている町の職員さんには、病気にならないで、前のめりにならずに、仕事して下さい。思う事は多分皆一緒のはずだから。(60代)
- 復興庁・福島県・浪江町の御支援誠にありがとうございます。今後も出来る限りお願い致します。(70代以上)

**【今後のエネルギー政策について】**

- 原発を再稼動する動きが目立つ。人間とは、忘れることで自己防衛をしているのだなと実感した。高価でも原子力以外の安全な電力を選択すべきである。少なくとも、日本人は。(40代)
- 原子力発電はすべて廃止すべきである(人間の力ではコントロールできない)。(60代)
- 原発の政策を明確にいただき、特に使用済燃料については、急いでいただきたいです(福島第一の事も大事ですが)。(70代以上)

